

都市再生整備計画 事後評価シート
青森駅周辺地区

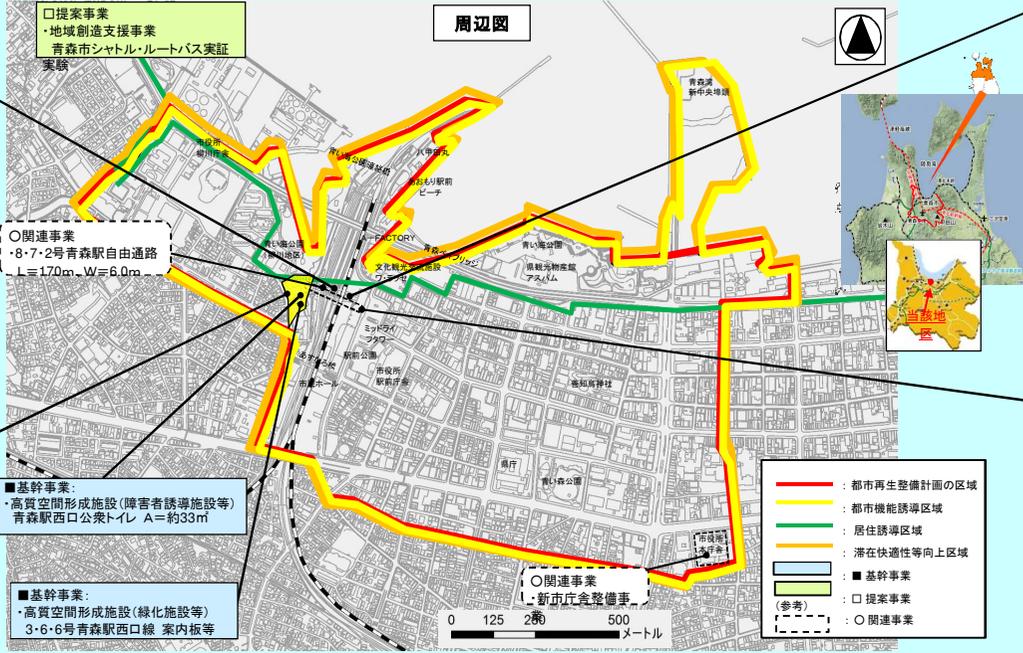
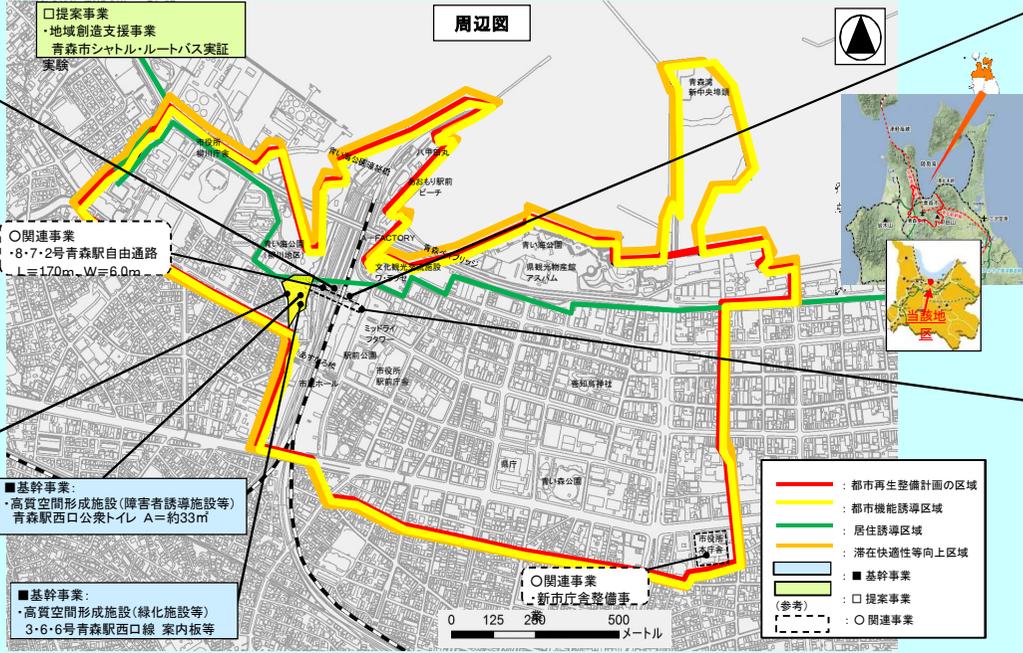
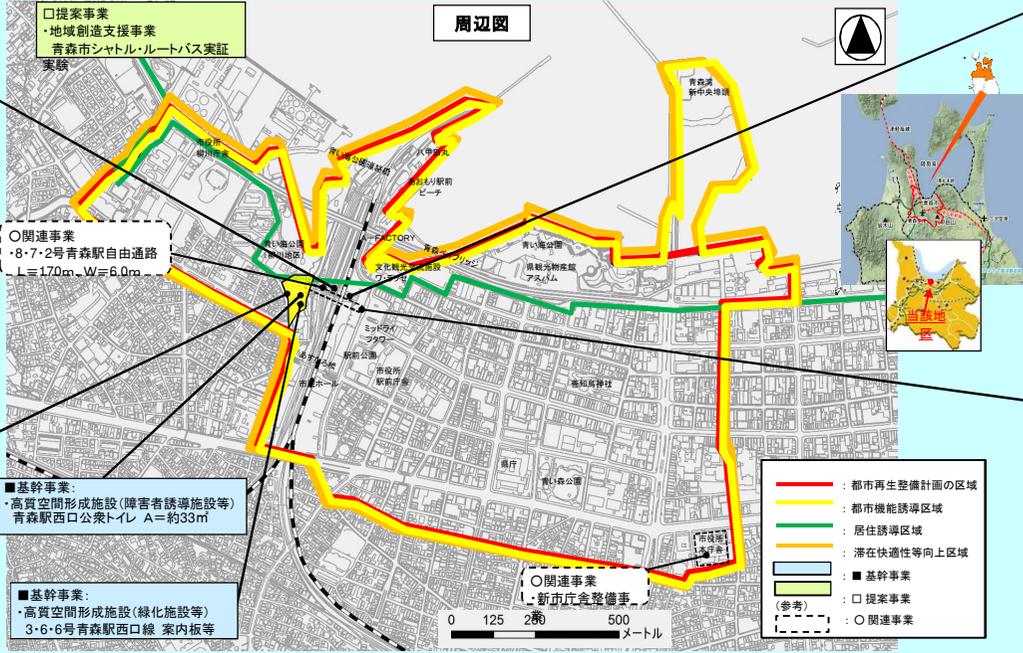
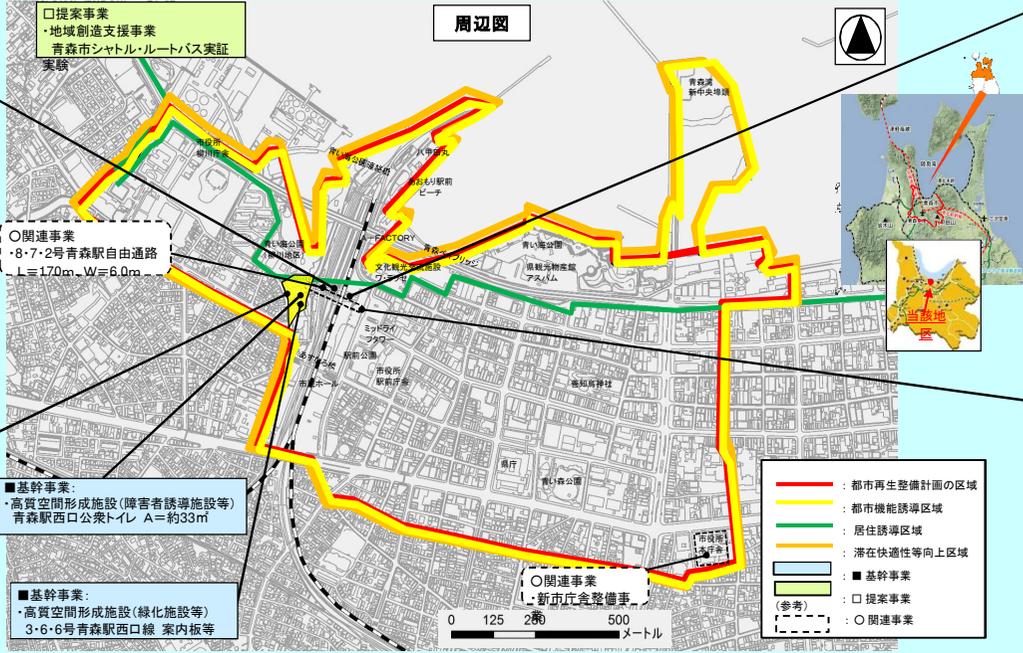
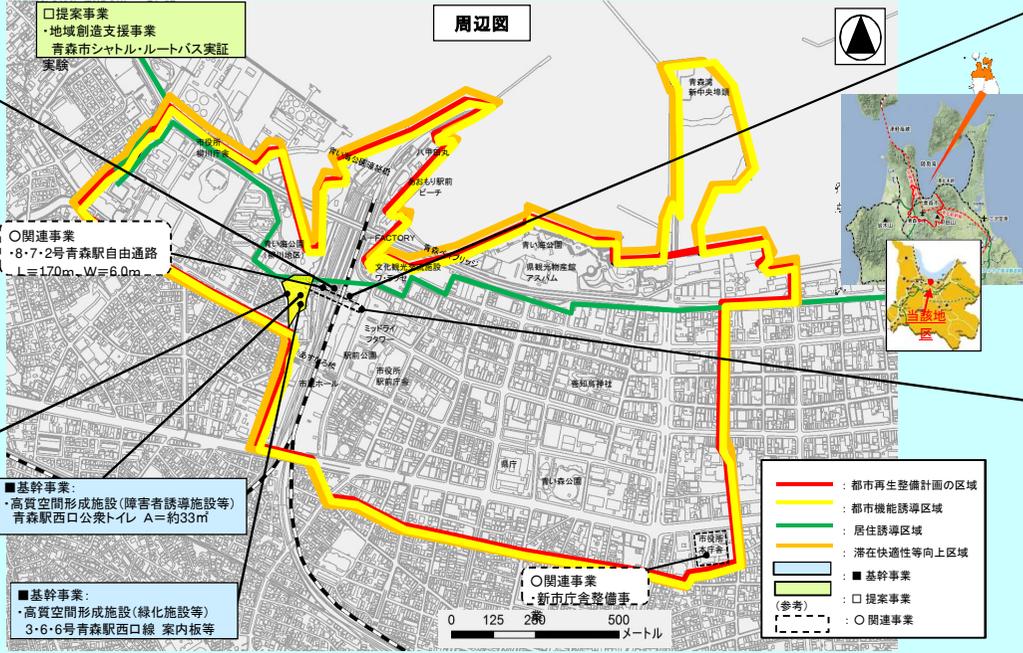
令和7年3月

青森県青森市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	青森県	市町村名	青森市	地区名	青森駅周辺地区			面積	144.9ha			
交付期間	平成30年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	2110.8百万円	国費率	0.489					
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(3・6・6号青森駅西口線)、高質空間形成施設(緑化施設等)、高質空間形成施設(障害者誘導施設等)									
		提案事業	地域創造支援事業(青森市シャトル・ルートバス実証実験)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	—			削除/追加の理由		—				
		提案事業	—			—		—				
	新たに追加した事業	基幹事業	①高質空間形成施設(緑化施設等)自由通路西口北側窓・天井 ②高質空間形成施設(障害者誘導施設等)自由通路EV・ESC ③8・7・2号青森駅自由通路(駅ビル内自由通路)			①市民ワークショップ等の意見を反映し、賑わいづくりに資するため。 ②バリアフリーに対応した歩行者ネットワークを確保するため。 ③駅ビル及び自由通路(線路上空部)と一体的な整備を行うため。		—				
提案事業		—			—		—					
交付期間の変更	当初	平成30年度～令和4年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—						
	変更	平成30年度～令和5年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	青森駅周辺地区の歩行者通行量	人/日	11,960	H29	11,960	R5	12,402	○	ありなし	目標の達成はできたため、引き続き賑わい創出につながる取り組みを行う。	—
	指標2	年間観光施設入込客数	人/年	1,555,258	H29	1,555,258	R5	1,850,108	○	ありなし	目標の達成はできたため、引き続き賑わい創出につながる取り組みを行う。	—
	指標3									ありなし		
	指標4									ありなし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	四者(青森県・青森市・青森商工会議所・JR東日本)による「青森駅周辺のまちづくりに関する連携協定」を締結し、青森駅周辺の賑わいを創出する取組等を四者が相互に連携・協力している。											
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング				—				—			
	官民連携による取組				四者(県・市・商工会議所・JR東日本)による「青森駅周辺のまちづくりに関する連携協定」を締結し、青森駅周辺の賑わいを創出する取組等を四者が相互に連携・協力している。				●			
	持続的なまちづくり体制の構築				青森駅周辺の課題を関係者間(官民)で共有しつつ、近年の社会の変化に応じた道路空間再構築・利活用に関する知見を深めることを目的とした青森駅周辺地区ウォークル勉強会を開催。				●			

様式2-2 地区の概要

青森駅周辺地区(青森県青森市) 都市再生整備計画事業の成果概要					
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標 人が集まる環境整備による回遊とにぎわいの創出 目標1 人口減少・少子高齢社会に対応した誰にとっても優しいまちの形成 目標2 交通アクセス環境の改善充実や新たな魅力づくりによる、市民や観光客の利便性向上	青森駅周辺地区の歩行者通行量	単位: 人/日	11,960 H30	11,960 R5	12,402 R5
	年間観光施設入込客数	単位: 人/年	1,555,258 H30	1,555,258 R5	1,850,108 R5
		単位:	H	R	R
		単位:	H	R	R
		単位:	H	R	R
■基幹事業: ・高質空間形成施設(緑化施設等) 8・7・2号青森駅自由通路 修景 	□提案事業 ・地域創造支援事業 青森市シャトル・ルートバス実証実験 	■基幹事業 ・高質空間形成施設(障害者誘導施設等) 8・7・2号青森駅自由通路 EV、ESC整備 			
■基幹事業: ・道路 3・6・6号青森駅西口線 L=約130m W=11m (青森駅西口駅前広場 A=8,000㎡) 	○関連事業 ・8・7・2号青森駅自由通路 L=170m、W=6.0m 	■基幹事業 ・道路 8・7・2号青森駅自由通路 L=約30m W=10m (自由通路全体 L=170m W=6m) 駅ビル内自由通路の整備 			
■基幹事業: ・高質空間形成施設(障害者誘導施設等) 青森駅西口公衆トイレ A=約33㎡ 	○関連事業 ・新市庁舎整備車 	■基幹事業: ・高質空間形成施設(緑化施設等) 3・6・6号青森駅西口線 案内板等 			
まちの課題の変化 課題1: 鉄道による市街地分断の解消や、天候に左右されないバリアフリー環境の向上が必要。(回遊性の向上) →青森駅自由通路整備によりエレベーター及びエスカレーターが設置されたことから天候に左右されないバリアフリー環境が向上し、さらには、青森駅西口駅前広場の整備により交通結節機能が西口側にも整備されたことから、鉄道による市街地分散が解消された。 課題2: 公共交通を中心とした総合交通ターミナルとしての一層の機能充実や、自家用車、観光バス、自転車など多様な交通モードへの対応が必要。(多様なアクセスへの対応) →青森駅西口駅前広場の整備により駐車場、バス停、自転車駐輪場が整備され、西口側からも多様な交通モードへの対応が可能となった。 課題3: ひとが集まる環境創出と併せ、公共交通と連携し、地区内外の公共・民間施設を結び仕組みが必要。(市民や観光客が集まる新たな魅力や仕組みづくり) →バス乗り場を西口駅前広場に設置することにより、バスによる西部方面施設への交通アクセスが向上した。さらには、JR東日本による駅ビル建設によりひとが集まる環境創出がなされた。	今後のまちづくりの方策(改善策を含む) ・引き続き四者(県・市・商工会議所・JR東日本)で相互に連携・協力し、青森駅周辺の賑わい創出につながる取組を推進する。 ・道路空間の利活用に向けた社会実験等を実施するなど、賑わい創出に向けて継続的に取り組む。				

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標		●	—	—	—
C. 目標値		●	—	—	—
D. その他()		●	—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	3・6・6号青森駅西口線	1,140	A=約8,300㎡	1,127	A=約8,000㎡	西口駅前広場の整備計画見直しに伴う整備面積の減。	影響なし	●	
道路	8・7・2号青森駅自由通路(駅ビル内自由通路)	—	—	97	L=約30m	JR東日本による駅ビル整備に伴った駅ビル内自由通路整備の追加。	影響なし	●	
河川	—	—	—	—	—	—	—	—	
下水道	—	—	—	—	—	—	—	—	
駐車場有効利用システム	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域生活基盤施設	—	—	—	—	—	—	—	—	
高質空間形成施設	(緑化施設等) 8・7・2号青森駅自由通路、3・6・6号青森駅西口線	110	青森駅自由通路修景、青森駅西口案内板等	477	青森駅自由通路修景、青森駅西口案内板等	自由通路西口北側窓に市民意見(海への眺望)を反映したことによる事業費の増。	影響なし	●	
高質空間形成施設	(障害者誘導施設等) 青森駅西口駅前広場公衆トイレ・青森駅自由通路EV・ESC	40	青森駅西口駅前広場公衆トイレ	401	青森駅西口駅前広場公衆トイレ・青森駅自由通路EV・ESC	自由通路のEV・ESC整備を他事業から移行したことによる事業費の増。	影響なし	●	
既存建造物活用事業	—	—	—	—	—	—	—	—	
都市再生交通拠点整備事業	—	—	—	—	—	—	—	—	
土地区画整理事業(都市再生)	—	—	—	—	—	—	—	—	
住宅市街地総合整備事業	—	—	—	—	—	—	—	—	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	青森駅周辺地区の歩行者通行量	人/日		11,960	H29	11,960	R5	モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み ● 12,402	事後評価	○		
指標2	年間観光施設入込客数	人/年		1,555,258	H29	1,555,258	R5	モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み ● 1,850,108	事後評価	○		
指標3								モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み	事後評価			
指標4								モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み	事後評価			
指標5								モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み	事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	<ul style="list-style-type: none"> 自由通路の整備により、鉄道で分断された東西の市街地がバリアフリーで結ばれ、冬季でも利用しやすい歩行空間が確保されたこと 西口駅前広場の整備により、輻輳していた交通の整序が図られ、東口駅前広場の機能を補完し、自由通路と一体となって多様な交通手段に対応するよう交通結節機能が強化されたこと ※その他、青森駅周辺での様々な下記環境変化が要因と考えられる 	—
指標2	<ul style="list-style-type: none"> JR東日本による青森駅東口駅舎跡地への駅ビル開発により、賑わいが創出されたこと 国際クルーズターミナルの供用開始(H31.4)に伴ったクルーズ船来港の増加等により観光客が増加したこと 青森駅周辺整備事業と平行して、同地区では、市役所の総合窓口機能や青森商工会議所の移転、あおり駅前ビーチ供用開始、再開発事業による商業施設やホテル・マンションの整備により、青森駅周辺での交流人口が増加したこと 	
指標3	—	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
		基準年度	基準年度	基準年度	基準年度			
その他の数値指標1						モニタリング		
						事後評価		
その他の数値指標2						モニタリング		
						事後評価		
その他の数値指標3						モニタリング		
						事後評価		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

本事業に伴う、同地区での様々な取組や効果は下記のとおり

- ・青森駅周辺では、四者連携により、多様なイベントが開催されており、同地区の賑わい創出につながっている。
- ※青森駅周辺のまちづくりに関する連携協定(四者連携): 青森県・青森市・青森商工会議所・JR東日本の四者が相互に連携・協力しながら、地方創生に向けた青森駅周辺のまちづくりに関する取組を推進することを目的とし、平成30年6月6日に締結
- ・自由通路の壁面が、文化芸術活動の場として多くの市民に利用されている。
- ・青森駅西口から東口側の緊急輸送道路である(主)青森停車場線へのアクセスが3分短縮され、駅東西の連絡強化による災害等に強い地域づくりに大きな効果があった。
- ・自由通路の整備により、津波・洪水、冬季の雪害(豪雪・暴風)等の多様な災害時において、周辺住民や観光客の緊急避難路として活用が可能となった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
四者(県・市・商工会議所・JR東日本)による「青森駅周辺のまちづくりに関する連携協定」を締結し、青森駅周辺の賑わいを創出する取組等を四者が相互に連携・協力している。	予定どおり実施した	【実施時期】 令和元年10月・11月、令和2年2月・7月・8月・10月・12月 令和3年12月、令和4年10月・12月、令和5年10月・12月 令和6年4月・10月 【実施結果】 四者が相互に連携・協力イベントを行い、青森駅周辺での賑わい創出を図った。	整備完了後も引き続き四者で相互に連携・協力し、青森駅周辺の賑わい創出につながる取組を推進する。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
青森駅周辺の課題を関係者間(官民)で共有しつつ、近年の社会情勢の変化に応じた道路空間再構築・利活用に関する知見を深めることを目的とした勉強会(青森駅周辺地区ウォークアブル勉強会)を開催	予定どおり実施した	当初は、青森駅周辺の課題解決を目的とし、参加者が自治体関係者だけであったが、地元商店街や交通監理者等、多様な団体にも参加いただき、体制構築を図っている。	-	道路空間の利活用に向けた社会実験等を実施するなど、賑わい創出に向けて継続的に取組む。
	予定はなかったが実施した ●			
	予定したが実施できなかった (理由)			
-	予定どおり実施した	-	-	-
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
青森駅周辺地区ウォークアブル勉強会	各機関関係者(県都市計画課・道路課、市都市政策課・道路建設課・道路維持課・公園河川課・経済政策課、青森商工会議所、JR東日本、商店街振興組合、青森県警、青森河川国道事務所等)	令和6年4月・6月・7月・9月	都市政策課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2					
指標名		青森駅周辺地区の歩行者通行量		年間観光施設入込客数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(3・6・6号青森駅西口線)	○	自由通路、西口広場の整備による交通結節点の強化により、青森駅周辺での交流人口が増加したことから達成できた。 その他、同地区におけるJR東日本による青森駅東口駅舎跡地への駅ビル開発や国際クルーズターミナルの供用開始(H31.4)に伴ったクルーズ船来港の増加、同地区での、市役所の総合窓口機能や青森商工会議所の移転、あおり駅前ビーチ供用開始、再開発事業による商業施設やホテル・マンションの整備も要因と考えられる。	○	自由通路、西口広場の整備による交通結節点の強化により、青森駅周辺での交流人口が増加したことから達成できた。 その他、同地区におけるJR東日本による青森駅東口駅舎跡地への駅ビル開発や国際クルーズターミナルの供用開始(H31.4)に伴ったクルーズ船来港の増加、同地区での、市役所の総合窓口機能や青森商工会議所の移転、あおり駅前ビーチ供用開始、再開発事業による商業施設やホテル・マンションの整備も要因と考えられる。				
	道路(8・7・2号青森駅自由通路(駅ビル内自由通路))	○							
	高質空間形成施設(8・7・2号青森駅自由通路修景)	○							
	高質空間形成施設(3・6・6号青森駅西口線案内板等)	○							
	高質空間形成施設(青森駅西口駅前広場公衆トイレ)	○							
	高質空間形成施設(青森駅自由通路EV・ESC)	○							
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

一：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	青森駅周辺のさらなる賑わい創出に向け、引き続き関係機関と連携し取組んでいく。	青森駅周辺のさらなる賑わい創出に向け、引き続き関係機関と連携し取組んでいく。		
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類									
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
青森駅周辺地区ウォーカーブル勉強会	各機関関係者(県都市計画課・道路課、市都市政策課・道路建設課・道路維持課・公園河川課・経済政策課、青森商工会議所、JR東日本、商店街振興組合、青森県警、青森河川国道事務所等)	令和6年4月・6月・7月・9月	都市政策課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
鉄道による市街地分断の解消や、天候に左右されないバリアフリー環境の向上が必要。(回遊性の向上)	青森駅自由通路整備によりエレベーター及びエスカレーターが設置されたことから天候に左右されないバリアフリー環境が向上し、さらには、青森駅西口駅前広場の整備により交通結節機能が西口側にも整備されたことから、鉄道による市街地分散が解消された。	-	-
公共交通を中心とした総合交通ターミナルとしての一層の機能充実や、自家用車、観光バス、自転車など多様な交通モードへの対応が必要。(多様なアクセスへの対応)	青森駅西口駅前広場の整備により駐車場、バス停、自転車駐輪場が整備され、西口側からも多様な交通モードへの対応が可能となった。	-	
ひとが集まる環境創出と併せ、公共交通と連携し、地区内外の公共・民間施設を結び合わせる必要がある。(市民や観光客が集まる新たな魅力や仕組みづくり)	バス乗り場を西口駅前広場に設置することにより、バスによる西部方面施設への交通アクセスが向上した。さらには、JR東日本による駅ビル建設によりひとが集まる環境創出がなされた。	-	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	青森駅周辺のさらなる賑わい創出	引き続き四者(県・市・商工会議所・JR東日本)で相互に連携・協力し、相互に連携・協力し、青森駅周辺の賑わい創出につながる取組を推進する。	—

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策			

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	青森駅周辺地区の歩行者通行量	人/日	11,960	H29	11,960	R5	確定	○	12,402	○	あり	—	—	—
							見込み				なし			
指標2	年間観光施設入込客数	人/年	1,555,258	H29	1,555,258	R5	確定	○	1,850,108	○	あり	—	—	—
							見込み				なし			
指標3							確定				あり			
							見込み				なし			
指標4							確定				あり			
							見込み				なし			
指標5							確定				あり			
							見込み				なし			
その他の数値指標1							確定							
							見込み							
その他の数値指標2							確定							
							見込み							
その他の数値指標3							確定							
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	青森駅周辺のバリアフリー化や交通アクセス環境の強化が図られたこと、さらにはJR東日本を主体とした駅ビル開発により賑わいが創出され、数値目標を達成することができた。	青森駅を中心とした交通結節点機能の強化が図られたことから、街なかの回遊とにぎわいの創出を図るソフト事業の充実などによる、国内外からの観光客などの交流人口の増加を通じた消費需要の獲得に向け、魅力的な拠点形成が望まれる。
	うまくいかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

現時点の予定はなし。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和6年11月1日 ～令和6年11月15日	同左	担当課への郵送、 FAX、電子メール、窓口 での意見書提出	都市整備部 都市政策 課
広報掲載・回覧・個別配布	広報誌に市のホームページで 公表している旨を掲載	広報あおもり11月号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市政策課窓口で閲覧	令和6年11月1日 ～令和6年11月15日	同左		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	足達 健夫 公立大学法人青森公立大学経営経済学部 准教授 松井 克明 東北福祉大学総合福祉学部福祉行政学科 准教授	令和6年11月19日	都市整備部 都市政策課	青森市社会資本整備評価委員会条例	青森市社会資本整備評価委員会
その他の委員	松田 英嗣 あおもり創生パートナーズ株式会社 取締役 大坂 美保 NPO法人青森県防災士会 女性部長 黄金崎 勉 一般社団法人青森県建築士会 相談役				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	—
	成果の評価	・駅を挟んだ東西の交通量がどう変わったか、駅西側住民の生活がどう変化したかという視点で、もっと直接的な効果がカウントできればより良かった、という意見があった。
	実施過程の評価	特になし。
	効果発現要因の整理	特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きについて、特に異論なし。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	特になし。
	フォローアップ	特になし。
	その他	・観光客にとっても地域住民にとっても歩きやすいまちができると、イベントなどの使い方がよりわかりやすくなると思う、という意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、特に異論なし。
その他	・駅前が明るくなり賑わいを感じているといった意見や、西口駅前広場などの整備は街が発展していく一つの要素となっていると感じるので今後もいろいろ計画をお願いしたい、という意見があった。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。